

## 1. 店長 (45 歳・男性)

独身。22歳で入社以来、20年以上勤務。数店の店長を歴任。

社長に当日の状況も電話で報告していたが、チェーン店の業績悪化の事実を知っており、社長にも「できるだけ工夫して営業を続けてくれ」と頼まれた。一方で、最近客からのクレームが多く、SNSでやたら書き立てる客もいて、客に知られることを恐れていた。換気扇が壊れてから頭の痛い日が続き、睡眠もとれていない。ちょうどスタッフの隙間に当たり、ここ20日連続で勤務しておいた。もともと花粉症がひどいが、窓を開け放っての作業だったので、頭痛は花粉のせいだと思っていた。

当日、翌日といろいろな事情聴取を受けた。どうして救急車をキャンセルしたかを、いろいろな人から、かなりしつこく質問された。頭が働かなかったから、店の評判を気にしたから、などと答えたが、店員の人名を尊重していないという感じでとらえられ、「そんなことは一切ない」と反論して、言い合いになってしまった。以前から、店員のことは第一に考えていたつもり。店をなくしたら、店員も困る。店員を守るつもりで、店を守っていたのに。

十分換気はしていると勘違いしていた。あとでいろいろ教えてもらうと、確かに、自分の判断は甘かったと思う。一酸化炭素に関する知識も不十分だった。皆の命を危うくしたことを申し訳なく思っている。

AIに確認したところ、おそらく「罰金刑(数十万円)」または「懲役刑(執行猶予付き)」で済むのではないかということだが、状況によっては、刑務所に入ることになる。親にどう話そう。

今は、店に帰りたくないし、あまりみんなにも会いたくないが、しっかり謝る機会が必要だと思っている。逃げるつもりもない。社長からも責められ、会社は辞めるつもり。実家の鹿児島に帰って、一からやり直そうと思っている。会社や社長に対する恨みはない。

事件後、夜はもっと眠れない。ずっと当日のことを考えている。あの時こうすればよかったなど。みんなから責められるイメージもわいてくるし、店に行きたいくない。特にキッチンには近寄りたくないが、そうも言っていられない。また、その後も、歩行が危うい(一酸化炭素中毒の後遺症)。自分も本当に危なかったのかもしれない。

早く、業務にけりをつけて、やめたい。